

おコメの流通は不安定、 街から病院が消えていく… こんな国に誰がした！

「行き当たりばったりのコメ対策」

おコメの問題が、混迷を極めています。1年間で価格が倍以上となる異常事態に、政府はようやく備蓄米の放出を始めました。昨年夏、おコメが店頭から消えた時に国民は備蓄米の放出を求めましたが、政府は「秋に新米が出回る」として取り合いませんでした。その後もおコメは品薄が続き、価格も跳ね上がりました。

政府はようやく、遅すぎる備蓄米の放出を始めましたが、放出のしすぎで約90万トンあった在庫はあっという間に残り約10万トンとなり、凶作や不作時の流通安定に備えるという備蓄米本来の目的を果たせないほどに減りました。

すると小泉農相は「輸入に頼ればよい」と、今度はミニマムアクセス(最低輸入量)米の輸入前倒しを発表しました。石破政権のコメ対策は行き当たりばったりで安定供給にならないばかりか、今のコメ問題の原因である「生産量の低下」の改善になっていません。

全国に広がる

病院のない地域

「近所の、ずっと通っていた病院が廃業した」こんな声を近ごろよく聞きます。昨年の診療報酬(医療の値段)改定では、薬価を除く報酬本体は0.88%と、物価高騰に追いつかない実質マイナスであり、医療業務本体が赤字となった医療機関は全国で7割にのぼります。人件費も補填できず、医療従事者も不足するという悪循環に陥っています。病院のない地域が全国で増えています。

しかし、自民・公明・維新の3党は医療費の年間4兆円削減や病床数の11万床削減で合意し、「誰もが安心して受けられる医療」を国民から奪おうとしています。



主食のお米は足りない、
病院は経営が続けられない、
こんな国に誰がしたのでしょうか。

選挙対策の2万円給付に

だまされずに

参議院選挙で

怒りの審判

をくだしましょう！

